

十、章利。佐渡守。法名隆翁章紹。
 十一、景章。彈正忠。法名章棟。
 十二、光章。兵庫助。法名章榮。
 十三、知章。兵庫助。法名盛山章松。
 十四、□章。又五郎。法名華孫章榮。
 十五、俊章。次郎左衛門尉。法名章隆。
 十六、盛章。佐渡守。法名章運。天正中荒山で嫡子伯耆成芳と共に戦死。(天正七年の文書に徳田佐渡守秀章があるのは是と同人歎)

右の外貞和の文書に得田章香があり、明徳に得田章長があり、應永に得田勘解由左衛門章光及び兵庫入道章全があるが、その關係は知り得ぬ。得田氏は中頃徳田と書いたこともあり、その末流、一は長氏に仕へ、一は前田氏の臣となつた。

トクダカンシヨ 徳田寛所 金澤の人。諱は穀、字は子志又は子宣、寛所・寛所再更・青山冷美人等と號し、醫を業とし、詩書を能くし、又山水の畫に長じた。明治廿一年一月四日六十七歳を以て歿。

トクダゲンアン 徳田玄庵 加賀藩の御醫者で、文化三年に歿。その子順作一貞繼ぎ、五人扶持を受けた。

トクダゴジロウ 徳田小次郎 一向一揆の魁。天正八年十月坪坂新五郎と共に江沼郡松山城に據つたが、柴田勝家の先鋒柴田勝政等に攻められて歿した。一書に金澤御坊陥落の際戦歿したと記するものもあるが、非であらう。

トクダシヨウ 得田庄 羽咋郡に在つた。正應六年六月廿八日の讓狀に『ゆづり渡すまごひこ二郎のりながのとの國とくだのしやう

トク

ぢとうしき云々。』文和二年七月十日の讓狀に、『讓渡能登國得田庄地頭職事云々。』などと見える。

トクダジヨウ 徳田城 羽咋郡徳田・館開の間に在る。越登賀三州志に、北壘僅かに存し、その餘は皆鋤いて田と爲るとあるが、今も東方一四五米、西方一四九米、南方一三三米、北方一三〇米許の地形は歴然としてゐる。得田氏が世々こゝに居た。

トクダホ 得田保 羽咋郡に在つた。得田文書建長七年八月廿二日の下文に、『將軍家政所下能登得田保除命弟住人可令早藤原章家地頭職事』とある。後世土田庄内の徳田村が之に當るのであらう。

トクダモリアキラ 得田盛章 通稱佐渡。天正十年石動山の僧徒と興して荒山に陣した時、佐久間盛政に攻められ、その子伯耆盛芳と共に戦歿した。

トクダモンジヨ 得田文書 ↓キユウコホクチヨウロク 汲古北徴録。

ドグチ 土口 珠洲郡大谷の内の小字。
トクナリ 徳成 鳳至郡中町野郷に屬する部落。

トクナリイシ 徳成石 鳳至郡徳成小字ムジナ穴から産する石材。石英粗面岩質凝灰岩で、長石類は殆ど陶土化したもの、質は脆く軟かい。

トクナリヤチ 徳成谷内 鳳至郡中町野郷に屬する部落。
トクハシゴウ 得橋郷 ↓ウハシゴウ 得橋郷。

トクハシゴウ 徳橋郷 能美郡に屬する。古への得橋から轉じた名稱である。藩政時代

に平面・一針・小杉・大長野・小長野・牛島・河田・小野・能美・千代・古濱・國府・地田・立明寺・遊泉寺・鶴川・盲谷・佛大寺・鍋谷・寺島・和氣・上八里・下八里・佐野・末信・荒屋・野田・長野・島田・梯出の三十ヶ村を含んでゐた。

トクヒサ 徳久 能美郡山上郷に屬する部落。
トクホウジ 徳法寺 金澤助九郎町に在つて、眞宗東派に屬する。
トクホウジ 徳寶寺 鳳至郡上町に在つて、眞宗東派に屬する。初め同郡五郎左衛門分に創立し、寛永元年今の所に移つた。

トクボザキ 徳保崎 珠洲郡高屋の散村に徳保がある。又徳窪ともいふ。寶永元年一覽記に、『高屋の右の方の出崎を徳保崎とも鶴崎ともいへり。』と記する。

トクボザキシラヤマジンジヤ 徳保崎白山神社 珠洲郡高屋に在つた。式内等舊社記に、『徳保崎白山神社。西海郷高屋村徳窪鎮座。舊社也。』と記し、能登誌に『高屋村の散村徳窪といふ所に、白山宮の大なる宮森あり。大木古木生茂り、神さびたる境内に兜石といふ大石あり。』と見える。この社は、大正三年日吉神社に併合せられた。

トクマル 徳丸 石川郡中村郷に屬する部落。
トクマル 徳丸 鹿島郡良川院に屬する部落。能登名跡志に、『徳丸村近し。長家の郭跡あり。』とある。

トクマルアラヤ 徳丸荒屋 石川郡徳丸の内の小字。
トクマルガハ 徳丸川 鹿島郡能登部下・上徳丸の入合領なる高柳谷内から流出し、

能登部下領で濁川に落合ふ。流程七五〇米許。
トクマルジヨウ 徳丸城 鹿島郡上村地内清四郎山に在る。城の遺形今明らかではないが、天正十二三年の頃長連龍こゝに居城したといふ。後こゝから田鶴濱に移つたものであらう。

トクマルヌノ 徳丸布 鹿島郡徳丸に産するもので、縞布・緋布があり、その製粗悪であるが越後布に似て居た。↓ノトチヂミ 能登織。
トクマルホ 得丸保 又徳丸保に作り、石川郡に屬した。陰涼軒日録寛正二年十月十三日に、『玉泉寺領加賀州得丸保、依富樫中務大輔違亂、有住持天錫狀。』と見え、又親元日記別録に、『野依若狹守雄春天明八加州徳丸保内永代買得之地賣券云々。』と見える。後世徳丸村が存する。

トクマンジ 徳滿寺 羽咋郡直海に在つて、眞宗東派に屬する。
トクミツ 徳光 石川郡山島郷に屬する部落。寶永誌にこの村領小丸といふ所に大和半人が居住した跡があると記する。

トクミツウチ 徳光氏 親元日記寛正六年七月三十日に、『賀州得光信濃入道進上太刀系云々。』陰涼軒日録文正元年七月十二日に、『赤松次郎以加賀國依馬市之事、徳滿云者三度被召、不應于上命云々。』と見える。得光又は徳滿氏は、石川郡徳光の人であらう。
トクミツウチ 徳滿氏 ↓トクミツウチ 徳光氏。

ドクミヨウリヨウイン 獨明良因 金澤曹洞宗天徳院五代の住持。寛保二年九月十八日六十四歳にて歿。